

式辞(令和3年度卒業式)

ただいま、卒業証書を授与しました159名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また保護者の皆様におかれましても、お子様のご卒業おめでとうございます。

今から2年前に発生したコロナウイルスにより、世界は大きく変わりました。行動が制限され、人と接しない生活が求められ、何から何まで息苦しい世の中になってしまいました。この卒業式も、本来なら地元中学校長を始めとする来賓の皆様と一緒に、卒業生の門出を祝って頂くとともに、成長を感じてもらう儀式でしたが、今年もそれは叶いませんでした。しかし、簡素化したとはいえ、保護者の皆様と私たち教職員一同で、心からお祝いを致します。北陵高校での3年間良く頑張りました。本当に卒業おめでとう。

さて、入学してきた3年前を振り返りますと、5月に平成から令和に元号が変わり、新しい時代の幕開けと期待感に満ち溢れていましたが、その年の9月、10月の台風被害、そして、1月からのコロナ騒動。今思えば、8月キャンプでの山頂近くでの天候の変化に伴う雷雨。波乱の高校時代のスタートでしたね。

皆さんの高校3年間はどうか？

満足のいく高校生活でしたか？

一生思い出に残る出来事がありましたか？

コロナ禍の中で、学校生活と安全のバランスを考えて苦心し続けた2年間は、休校・課題提出・時差・短縮・リモート授業と日々判断が難しい期間でした。皆さんも戸惑いながらの学校生活だったことでしょう。私たちも皆さんが学校に登校しない日々は無力感でいっぱいでした。どんな高校生活を歩んだのか？今までの北陵生と同じ思いを持たせることが出来るのか？など想像するのが難しく自問自答する日々が続きました。

しかし、一人ひとりの思い出は卒業文集で読ませてもらう限り、想像以上にコロナ禍を前向きに捉えていて安心しました。楽しかった学校生活が垣間見れてホッとしました。これまで通り、いやこれまで以上に学校生活を楽しもうとしていた姿がありました。また、多くの友達に感謝、先生方に感謝、そして保護者の皆様に感謝する言葉で一杯でした。このコロナ禍での教育に間違いはなかった、そんな気持ちにさせてもらえる卒業文集でした。

まだまだ伝えたいことはたくさんありますが、卒業に際し、2つのことをお伝えし、お別れの言葉にします。

1つ目は、コロナに負けない人生を歩んでほしい、ということです。これから世の中はどのように変わっていくのか、正直私にも分かりませんし、不安です。ロシアのウクライナ進攻も始まり、より一層心配事が増えてしまいました。

皆さんの青春時代もコロナに翻弄されてしまいました。学校行事が縮小され、通常の高校生の3分の2程度の

登校になったのでしょう。楽しみにしていた沖縄への修学旅行も行けませんでした。何とか卒業旅行で、仲間と楽しんでいる姿を見て一息付きましたが、もっと笑顔でいっぱい为学校生活を送ってもらいたかった、送らせたかったと、どうしても考えてしまいます。

また、良くも悪くも、学校での問題行動が激減しました。友達とのやりとりが減ってしまったからなのでしょう。自分自身で問題を抱え込んでしまったり、家庭内や SNS 関連の問題の方が多くなりました。たださえ匿名でのやりとりが増えている中で、対面でのぶつかり合いが少なくなっているのは心配です。常にマスク越しの付き合いの中で相手の心理を読むのはとても難しいことでした。対面して、相手の表情や態度、体全体の雰囲気から気持ちを推し量ることの重要性に気付かされました。心の内は全身から滲み出るものですから、相手の一挙手一投足に関心を持ち、対応することの大切さを痛感しました。学校生活の中でも、学校行事を通じて協調性を育むことは、少なくなっていました。このままマスク越しの人間関係が続いていくとは思いません。まだもう少し我慢が必要かもしれませんが、徐々に、たくさんの人たちとの交流が始まっていきます。そんな時に皆さんの世代は遅れを取るかもしれません。

コロナに負けないとは、そのような全ての事象に対して、言い訳をしない人生を歩んでほしい、ということです。コロナのせいで何かが足りない、行事が少なかったから、コミュニケーション不足など、他人に言われないように頑張ることを期待しています。

こんな川柳が心に残っています。「目で笑い マスクの下で うっせえわ」

他の世代に同情されるのでは無く、反骨心をバネに変え、逞しく世の中を渡り歩いてもらいたいと思います。

2つ目は、挑戦する勇氣、を身に付けて欲しいと思います。

卒業文集の中にこんな言葉が書いてありました。紹介します。

「私は高校生になったら、何もかも変わるものなのだと考えていた。でも高校生になってみて、それは間違いだと気付かされた。新しい環境が自分を変えてくれるのではなく、自分が変わろうと行動を起こさない限り、何も変わらないのだ。行動を起こせば、良い方向にも悪い方向にも変わることを知った。」

そうなんです。自分が変わろうと行動を起こさない限り、何も変わらないのです。卒業すれば、新しい世界に

行けば、何かが変わると考えていたら、それは大きな間違いです。この人は、自分から行動することが大切だと言っています。そして、その結果を謙虚に受け止めることが必要であることを知ったと言っています。

学生時代の勉強は、どうしたら正解に早く近づけるかを競っていました。効率良く考え、行動する練習をしてきました。しかし、これから歩む人生にはこれといった正解がありません。卒業生159名いたら、159通りの人生があります。ITの発達により、効率良く仕事や勉強が出来るようになりましたし、便利になりました。しかし、便利になり豊かになる反面、息苦しい生活をしている人が減らないのも事実です。何故なのか？

効率良く行われることが、人を幸せにすることでは無いということなのだと思います。では、どんな強さが必要なのか？です。

私が考えるには、若い時に、どんどん新しいことに挑戦し、失敗したときには反省し、挫けない心を作って欲しいということです。

もう一つ大切なのは、挫けた時に助けてくれる場所・人も探しておくことです。同年代、青春期を共に生きてきた仲間のアドバイスは、時間と共にスパイスのように効いてきます。卒業文集を読むと、たくさんの良い言葉が埋まっていますので、一通り読み、何かを感じてください。

これからどんな人生が待っているのかわかりませんが、若い皆さんにはまだまだ失敗し、立ち直すチャンスがたくさんあります。一番いけないのは挑戦せずに後悔することです。挑戦し、失敗することで、その先に何かがあります。もがき苦しみ、悩んだ先の世界を楽しみにしてください。

そして、失敗したら、笑顔で報告しに来てください。どんな失敗したか教えてください。そんな皆さんを私たちは明るく待っています。北陵高校で過ごした3年間で、良い思い出になるのか、苦い思い出になるかはこれからの人生の歩み方で決まります。願わくば、皆さんの人生が笑顔に溢れていることを期待しております。

さあ、卒業です。新しい世界へ飛び立ちます。

「君は自由だ、選びたまえ」有名な哲学者サルトルの言葉です。これまでは保護者・学校の庇護のもとで生活していました。責任は皆さんにはありませんでした。しかし、これからは違います。選ぶ自由を手に入れる代わりに責任が発生します。北陵高校で学んだ3年間を生かし、コロナに負けず、何事にも果敢に挑戦する人生を歩んでください。

結びになりますが、ご列席いただきました保護者の皆さま方、大切なお子さまをお預かりしてから、あっという間に三年間が過ぎました。令和と共に歩んだ激動の高校生活になってしまいました。コロナに翻弄される学校でしたが、お子様たちは立派に成長しました。2度とない青春時代を常に楽しんでいました。

本校としても、日に日に状況が変化する中で、教育を止めずに、常に最善の判断をしてきたつもりです。そんな中でも、担任を中心に保護者の皆様と協力しながら、子どもたちの成長に大きなお手伝いが出来たのでは考えております。時には連絡不行き届きのところもあり、ご不満を感じられたこともあったかと存じますが、常に本校の教育に対して温かいご理解とご支援を賜りましたことに、教職員を代表して、心より御礼申し上げます。

改めて、コロナ収束と共にマスクの取れた笑顔いっぱいの世の中に戻ることを心から祈りながら、卒業生の限りない前途を祝福して、式辞といたします。

令和四年三月二日

茂原北陵高等学校

校長 永野 卓